

令和7年度 学校評価 評価書(一覧)

評価基準 A—80%以上(良い) B—60~80%未満(まあまあ良い) C—40~60%未満(あまり良くない) D—40%未満(良くない)

園学校名 安田町立安田小学校

項目	中長期経営目標	短期経営目標	短期経営目標の達成状況	自己評価	改善方策	関係者評価講評	関係者評価
	教材研究の質的向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各種学力調査の結果を分析し、授業改善に繋げる</li> <li>・全国学力・学習状況調査(全国平均以上:国語科)</li> <li>・高知県学力定着状況調査(県平均以上:国語科)</li> <li>・総合学力調査(全国平均以上:国語科)</li> <li>○講師を招聘しての授業研(3回)及び校内研修(国語科の実施)</li> <li>○学校評価アンケートにおける保護者の肯定的回答率</li> <li>・「基礎学力が定着しているか」80%以上</li> <li>・「分かりやすい授業に努めていると思うか」90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各種学力調査の結果を分析及び共有し、授業改善に繋げようとする取り組み。</li> <li>・全国学力・学習状況調査・国語科【全国比: -3.8p】</li> <li>・高知県学力定着状況調査・国語科【県比: -0.3~-8.6p】</li> <li>・総合学力調査・国語科【全国比: -2.4~-10.4p】</li> <li>○講師(東部教育事務所・指導主事)を招聘して授業研を2回、校内研を1回実施した。</li> <li>○学校評価アンケートにおける保護者の肯定的回答率</li> <li>・「基礎学力が定着しているか」76%</li> <li>・「分かりやすい授業に努めていると思うか」91%</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題克服のために組織としてベクトル合わせを行う。</li> <li>○基礎学力の定着に向けた授業改善等、指導力向上を目指す。</li> <li>○国語科を中心に研究授業を実施し、講師も招聘することで新しい学びを授業に活かす。</li> <li>○より効果的で実践的な校内研修の在り方を探り、研究の繋がりを大切にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上に向けて授業改善や研修に継続して取り組んでいる点を評価する。今後は子どもや保護者にも学習のねらいや成長が見える形で発信してくれると家庭での支援にもつながると思う。</li> <li>・基礎学力の定着及び学力の向上に向けて、まずは学ぶことの楽しさを子どもたちに感じてもらえるような授業になれば良いと思う。</li> <li>・国語科「特に表現力」に重きを置くとのことだったので、町と連携して“読書量”を増やして欲しい。子どもたちが自然と手に取ることができるような図書環境整備を学校側からも働きかけて欲しい。</li> </ul>	C
知	家庭学習の意欲向上及び学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭学習強化週間における宿題提出率:93%以上</li> <li>○読書も含む家庭学習時間達成率:65%以上</li> <li>・低学年:30分以上/中学年:45分以上/高学年:60分以上</li> <li>○「家庭学習の手引き」の配布</li> <li>○自主学習ノートコンテストの実施(月1回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭学習強化週間における宿題提出率:85%</li> <li>○読書も含む家庭学習時間達成率:51%</li> <li>○「家庭学習の手引き」を配布し、家庭学習時間のめやすや各学年で身につけたい力、自主学習の参考例等を提示した。</li> <li>○毎月、自主学習ノートコンテストを実施し、家庭学習の成果を見合った。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>○読書週間とリンクさせ、家庭学習時間の達成率向上を目指すと共に、保護者への協力を仰ぐ。</li> <li>○週の半分以上は、授業とリンクした、端末等も活用する家庭学習を課す。</li> <li>○自主学習ノートの紹介の方法を検討する等、児童の意欲向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿題未提出は問題であり、放課後やらせる場所やチェック機関があると良い。</li> <li>・保護者への分かりやすい情報発信や具体的な提示などで家庭との連携を。</li> <li>・家庭での学習及び読書習慣が定着するように取り組んで欲しい。</li> <li>・自学ノートコンテストと併せて読書コンテストなどやってみてはどうか(本の紹介)。宿題として「読書」と本を持ち帰ってくるが、家庭では形骸化している。一言感想や友だちへの紹介文など手引きをしていくのも必要と感じる。一年生はタブレットで本読みを録画して提出しており、良い取り組みであると思った(セリフに応じた気持ちの込め方など)。</li> <li>・タブレットをもっと活用した家庭学習を出してはどうか。</li> </ul>	C

	<p><b>読書活動の充実</b></p>	<p>○図書委員会を活用し、読書への興味・関心を広める ・教職員による読み聞かせの実施 ・読書アンケート「本を読むのが好き」60%以上 ○家庭読書週間の実施(年2回) ○読書感想文・感想画コンクールへの応募</p>	<p>○読み聞かせボランティアの方や教職員等による読み聞かせを実施した。 ○読書アンケート「本を読むのが好き」における肯定的回答率:45% ○家庭読書週間を6月と1月に実施し、家庭における読書活動の充実や、読書を通じた家族のコミュニケーションの活性化を図った。 ○読書感想文・感想画コンクールに応募した。</p>	B	<p>○図書委員会活動を見直し、必要なものを精選して計画的に行う。 ・選書会を実施することで、本への興味関心を高める。 ○読書感想文・読書感想画コンクールに挑戦することを通し、本への興味・関心や表現力の高まりを目指す。 ○ほめほめ週間とリンクした読書週間を継続して実施する。</p>	<p>・読書週間や読み聞かせなど継続した取り組みが読書への関心を高めると感じた。家庭でも読書習慣が広がる工夫をしたらさらに効果的だと思う。 ・毎日図書室に行く習慣ができるような計画を行って欲しい。 ・自学ノートコンテストと併せて読書コンテストなどやってみてはどうか(本の紹介)。宿題として「読書」と本を持ち帰ってくるが、家庭では形骸化している。一言感想や友だちへの紹介文など手引きをしていくのも必要と感じる。 ・2年生が新聞コンクールに入賞した。新しい挑戦はどんどん経験して欲しい。</p>	B
徳	<p><b>道徳教育の充実</b></p>	<p>○ほめほめ週間の実施(2回) ○児童対象道徳授業チェックシート(10項目・各4点満点)における平均値:2.7以上 ○道徳意識調査「自分には良いところがある」肯定的回答率 80%以上</p>	<p>○子どもの自尊感情を育むために、ほめほめ週間を6月と1月に実施した。 ○児童対象道徳授業チェックシートの平均値(10項目・各4点満点):3.6 ○道徳意識調査「自分には良いところがある」に対する肯定的回答率:82%</p>	A	<p>○ほめほめ週間を通して、家庭の道徳意識の高まりを目指す。 ○道徳参観日や学校だより等を通して、「家庭で取り組む高知の道徳」の効果的な活用を目指す。 ○各種アンケート結果を検証・考察し、児童に寄り添った対応を心掛ける。 ○道徳の授業の実践力を高める。</p>	<p>・子どもの自己肯定感を高める取り組みが成果につながっていると思う。今後も家庭と連携して欲しい。 ・自分の事が好きになるよう自分自身を知り、かけがえのない存在であると感じられる授業を続けて欲しい。 ・どの学年でも言葉遣いが非常に悪い。家庭やインターネットなどの環境が要因であると思うが今一度言葉の持つ力を考える機会を。 ・「高知の道徳」はとても良い内容だと思うので、活用を是非続けて欲しい。</p>	A
	<p><b>生徒指導の充実</b></p>	<p>○Q-Uの実施及び活用(年2回) ・学校生活アンケート「学校が楽しい」80%以上 ・学級支援シートの作成→共通理解→活用 ○講師を招聘しての児童支援についての研修</p>	<p>○Q-Uを6月と11月に実施し、その結果を学級経営に活かすよう努めた。(学級支援シートの作成→共有→活用) ・学校生活アンケート「学校が楽しい」における肯定的回答率【1回目:90.5%/2回目:95.2%】 ○講師(高知大学教授)を招聘し、特別支援教育の視点からの児童支援についての研修を6回実施し、学級経営に活かすよう努めた。</p>	A	<p>○Q-Uの学級支援シートを活用し、継続した児童理解及び支援を目指す。 ○講師招聘研修やサポート事業等を活用し、特別支援教育の研究を進める。 ○児童会を活用するなど、児童主体の活動に繋げる。</p>	<p>・アンケートや支援体制を活用して取り組んでいると思う。今後も継続して取り組んで欲しい。 ・1人でも多くの児童が学校が楽しいと感じられるような環境づくりをして欲しい。</p>	A
	<p><b>人権教育の充実</b></p>	<p>○Q-Uの実施及び活用(年2回) ・「クラスは楽しく明るい感じがするか」80%以上 ○人権標語への取り組み(人権意識を高める)</p>	<p>○Q-Uを6月と11月に実施し、その結果を学級経営に活かすよう努めた。(学級支援シートの作成→共有→活用) ・「クラスは楽しく明るい感じがするか」における肯定的回答率:96% ○人権意識を高めるために、人権標語づくりに取り組んだ。</p>	A	<p>○教育活動全体を通じて、児童の人権意識・人権感覚の高揚に努める。 ○人権標語づくりに取り組み、人権意識を高める。 ○人権参観日や講演会等を設定し、授業を通し教員の人権意識・人権感覚を高めるとともに、児童・保護者の意識の変容にも努める。</p>	<p>・人権意識を高める継続的な取り組みがされていると感じた。地域や家庭とも連携してさらに広がることを期待する。 ・人権意識が様々な取り組みによって高まっていると思う。</p>	A

体	体力向上 運動の習慣化	<p>1 体力向上</p> <p>○年度末に柔軟性が県平均に達している児童の割合 70%以上</p> <p>○年度末に敏捷性が県平均に達している児童の割合 60%以上</p> <p>○やすだっ子体操や体カアップ集会を計画的に実施し、体力の向上を目指す。</p> <p>○「こうちの子ども体カ・運動能力向上プログラム」を活用したり、外部講師を招聘したりして、体育科における指導技術向上や体力の向上を目指す</p> <p>2 運動の習慣化</p> <p>○1日に1時間以上運動をしている児童の割合 50%以上</p> <p>○「運動やスポーツをすることが好き」の肯定的回答率 95%以上</p>	<p>1 体力向上</p> <p>○年度末に柔軟性が県平均に達している児童の割合:74%</p> <p>○年度末に敏捷性が県平均に達している児童の割合:60%</p> <p>○毎朝やすだっ子体操に、毎週水曜日に体カアップに取り組み、体力の向上を目指した。</p> <p>○「こうちの子ども体カ・運動能力向上プログラム」を活用したり、講師(県保健体育課・指導主事)を招聘したりして、体育科における指導技術向上や体力の向上を図った。</p> <p>2 運動の習慣化</p> <p>○1日に1時間以上運動をしている児童の割合:47%</p> <p>○「運動やスポーツをすることが好き」における肯定的回答率:54%</p>	C	<p>○課題のある運動種目については、取組を検証する上でも、年度末に実施し検証する。</p> <p>○やすだっ子体操や体カアップ朝礼等を計画的に実施し、運動の習慣化を図る。</p> <p>○「こうちの子ども体カ・運動能力向上プログラム」の授業での活用を通し、児童の体力向上を目指す。</p> <p>○授業改善のために、児童への体育アンケートを実施する。</p> <p>○委員会活動を積極的に行うことで、児童の意欲向上に努める。</p>	<p>・体力向上に向けて継続的な取り組みが行われていると思う。屋外での遊びや運動習慣を地域と協力しながら取り組みれば体力向上につながると思う。</p> <p>・運動やスポーツが好きと感じる児童がもう少し増えるよう取り組んで欲しい。</p> <p>・外で遊んでいる子どもを見ることがなくなっているの、学校で体カアップをするのは難しいと思う。運動の習慣がつくようにして欲しい。</p> <p>・運動会やマラソン大会のやり方を変えるということは、保護者から反発が起きやすいが、意見への回答書を見る限り納得のいくやり方のように思う。学校側からのコミュニケーション不足、言葉足らずの部分が多いこともあり、不信感につながっている。必要である取り組みは都度細かく説明を。</p>	B
	健康教育の推進	<p>○各種アンケートの実施及び活用</p> <p>・生活実態調査(年1回)、生活リズムチェック(学期1回)、朝ごはんカード(年1回)を実施する</p> <p>・生活リズムチェック:「メディア視聴時間1日2時間以内」の達成率 80%以上</p> <p>・生活リズムチェック:「6時半までに起きる」の達成率 65%以上、「就寝時刻を守る」の達成率 73%以上</p> <p>○生活改善啓発のため、年間を通して通信(やすだっ子通信・朝ごはん通信等)を発行する</p>	<p>○各種アンケートの実施及び活用</p> <p>・生活実態調査(年1回)、生活リズムチェック(学期1回)、朝ごはんカード(年1回)を、家庭生活を見直す材料として活用した。</p> <p>・生活リズムチェック「メディア視聴時間1日2時間以内」の達成率:66%</p> <p>・生活リズムチェック「6時半までに起きる」の達成率 67%、「就寝時刻を守る」の達成率 62%</p> <p>○生活改善啓発のため、年間を通して通信(やすだっ子通信・朝ごはん通信等)を発行した。</p>	C	<p>○SSW や専門機関と連携し、情報の共有を図る。</p> <p>○アンケートやQ-Uの結果を分析し、全教職員の共通理解のもと支援するように努める。</p> <p>・校内研修を継続して行い、児童理解や支援の方法についての学習を進め、指導力を高める。</p> <p>○健康面について個別指導や保護者面談を行う等、現状や課題を共有し改善に向けた取組を推進する。</p> <p>○アンケート結果を検証し、通信等で情報発信し啓発を図る。</p>	<p>・健康教育の推進では、目標値を下回っている項目もあるが、目標値以上に達成できるよう学校・地域・行政・保護者がどのような取り組みをすればいいのか、検討して欲しい。</p> <p>・生活習慣改善に向けた取り組みをしている点は評価する。メディア利用や睡眠習慣については各家庭と連携して取り組んで欲しい。</p> <p>・保護者の意識も含めて健康に対する意識を高めていけたら良いと思う。</p>	B
横断	学校・家庭・地域との連携	<p>○園小連携事業(年間4回以上の交流学習)を計画的に実施する</p> <p>○教科等による小中連携の実施</p> <p>○地域教材や人材を活用した授業(全学年1回以上)</p>	<p>○全学年が1回以上、園と交流した。</p> <p>○小中それぞれの授業を見合う日を設定した。また、5、6年の体育及び外国語の時間に、中学校の先生がT2として入ってくださった。</p> <p>○生活科や総合的な学習の時間を中心に、地域教材や人材を活用した授業を実施した。</p>	A	<p>○事前事後の計画や振り返りを確実に実施し、互恵性のある連携を目指す。また、学年が偏らないよう多くの学年と交流できるようにしていく。</p> <p>○充実した学習活動にするためにも、地域の教材や人材を積極的に活用し、結びつきや繋がりを深める。</p>	<p>・地域人材の利用や交流活動が充実し地域に開かれた学校づくりが進んでいると思う。地域の方との結びつきを大切に、継続して欲しい。</p> <p>・園との交流を「全学年」で取り組んだことがとても良い。</p>	A
	不登校への総合的対応	<p>○不登校児童、別室登校児童共に0人</p> <p>○学校生活アンケート「学校生活が楽しい」90%以上</p> <p>○SC、SSW と連携を図り、情報共有、支援会を月1回以上実施する</p>	<p>○不登校児童は1名いた。(年間出席数:41日)</p> <p>○学校生活アンケート「学校生活が楽しい」における肯定的回答率:85%</p> <p>○SC、SSW と連携を図り、情報共有を欠かさなかった。</p>	B	<p>○各種アンケート結果を分析することで、課題解決に向け全教職員が組織としてベクトルを合わせ、取り組む。</p> <p>○SCやSSW、専門機関等の助言を参考にしながら、支援の必要な児童に対応する。</p>	<p>・SC、SSW と連携、情報共有を欠かさなかったのが良かった。</p> <p>・引き続きそれぞれの児童に合わせた対応をして欲しい。</p> <p>・数年前からしたら劇的に不登校が減っているが、0と1は違うので今後も継続を。</p> <p>・学校生活アンケートの1回目と2回目で問2④～⑧で1人増えているのが気になる。</p>	B

働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○時間外在校等時間 月 80 時間未満 100% 45 時間未満 50%</li> <li>○月1回以上の定時退校日の設定と徹底 100%</li> <li>○定期的な個人面談の実施</li> <li>○不祥事を起こさない、起こさせない職場づくり(不祥事0)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○時間外在校等時間 80 時間未満 100% 45 時間未満 71%</li> <li>○月1回以上の定時退校日の設定はしていたが、現状では困難である。</li> <li>○定期的な個人面談を実施すると共に、必要に応じて臨時面談も実施した。</li> <li>○年間計画に基づき、不祥事防止研修を実施した。(不祥事0)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○継続的な声かけを行い、教職員の意識を高める。</li> <li>○校務や会議の簡素化・効率化を目指す。</li> <li>○教職員同士のコミュニケーションを大切にすると共に、働きやすい職場環境をつくる。</li> <li>○不祥事防止に向けた注意喚起を継続し、必要に応じて面談も実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化や地域の協力も含め、無理のない学校運営が継続されることを期待する。</li> <li>・働きやすいストレスの少ない環境づくりに努めていって欲しい。</li> <li>・働き方改革の推進は分かるが、簡素化しすぎないようにして欲しい。</li> <li>・働き方改革は今後も進めていくべきだが、家庭と学校の関係性が希薄にならないよう、ICT等を活用してコミュニケーションを。</li> </ul>	B
防災を中心とした安全教育・安全管理の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安全点検の実施(学期1回)</li> <li>○避難訓練(地震・津波2回、シェイクアウト1回、火災1回、不審者1回)、下校時の避難場所の確認(1回)、授業等を実施し、防災意識を高める</li> <li>○防災参観日等を活用した保護者への啓発</li> <li>○児童の防災教育等への肯定的回答率 95%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学期ごとに安全点検を実施し、劣化箇所や危険箇所等があれば、可能な限り修繕した。</li> <li>○様々な想定での避難訓練や、防災・減災に関する授業を通して、「自分の命は自分で守る」児童の育成に努めた。</li> <li>○防災参観日や学校だより等を通して、保護者への防災啓発を行った。</li> <li>○防災意識調査「避難訓練を通して、自分を守ろうとする気持ちが強くなったか」における児童の肯定的回答率:95%</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○危機管理マニュアルの見直しを行う。</li> <li>○避難訓練の事前・事後の振り返りを確実に行う等、内容を見直しながら継続して行うことで、教職員、児童の意識を高め、対応力を付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災教育や避難訓練が計画的に実施されており安心感がある。さらに工夫した内容になるよう期待する。</li> <li>・来年度は避難訓練を違う形で行うなど考えられている。</li> <li>・とっさに行動できるよう防災意識を高めていって欲しい。</li> </ul>	A
デジタル技術を活用した「学校の新しい学習スタイル」の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICTの積極的な活用</li> <li>○毎日の端末の家庭への持ち帰り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業や職員会議、研修等、学校のあらゆる場面において、クラスルームやグループウェア等を積極的に活用した。</li> <li>○毎日端末を持ち帰らせるようにしたことにより、児童が端末に触れる時間を増やし、操作等に慣れさせるようにしたり、家庭でも正しい使い方をすることができるように指導したりした。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○効果的なICTの活用を目指し、教職員の研修及び実践交流を実施していく。</li> <li>○端末の活用については、教職員間での共通認識を図り、正しくより効果的な活用を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル技術の進化は、秒進月歩だと思うのでデジタルの歴史や仕組みの基礎も教えてあげて欲しい。</li> <li>・ICTの活用が進み学習の幅が広がっていると感じる。継続的な指導を期待する。</li> <li>・端末の持ち帰り、宿題をタブレットでするのはとても良い。連絡帳をwebで見られるようにした取り組みは良いが、1回目から更新されず十分な説明もないのは残念(4年生)。</li> <li>・ちょっとした心身の様子や担任に知っておいて欲しいことを伝えられる術を構えて欲しい。</li> </ul>	B